

## 第5回 仙台市総合計画審議会議事録

日 時	令和元年5月27日(月) 18:00~20:05
会 場	仙台市役所2階 第一委員会室
出席委員	阿部一彦委員、阿部重樹委員、飯島淳子委員、岩間友希委員、遠藤智栄委員、奥村誠委員、小野寺健委員、折腹実己子委員、鎌田城行委員、菊地崇良委員、今里織委員、今野彩子委員、今野薫委員、榊原進委員、佐々木綾子委員、佐藤静委員、庄子真岐委員、菅井茂委員、竹川隆司委員、館田あゆみ委員、永井幸夫委員、中坪千代委員、浜知美委員、舟引敏明委員、やしろ美香委員、渡邊浩文委員 [26名]
欠席委員	姥浦道生委員、遠藤耕太委員、柿沼敏万委員、小岩孝子委員 [4名]
仙 台 市 (事務局)	福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、 郷湖政策企画部長、松田政策企画課長、柳沢政策企画課主幹、 千代谷政策企画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 仙台市総合計画審議会における審議経過について (2) 部会の設置について (3) その他 3 閉会
配付資料	1 令和元(2019)年度 審議会日程 2-1 第4回仙台市総合計画審議会 追加意見 一覧 2-2 都市像とまちづくりを進めるうえで大切にしたい価値観 ・重点的な取り組みの視点(修正案) 2-3 仙台市総合計画審議会における審議経過(修正案) 3 新総合計画の構成(想定) 4-1 部会の設置について(案) 4-2 部会までの流れについて(案)

### 1 開会

#### ○奥村誠会長

ただいまより第5回仙台市総合計画審議会を開会いたします。

議事に入る前に定足数等の確認を行います。事務局から報告をお願いします。

#### ○郷湖政策企画部長

はじめにご挨拶をさせていただきたいと存じます。

私4月の人事異動によりまして新たに事務局職員となりました政策企画部の郷湖でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日は今時点で26名の委員の方にご出席をいただいております。定足数を満たしているこ

とをご報告いたします。

○奥村誠会長

はい、承知いたしました。次に会議の公開・非公開の取り扱いですが、前回と同様に公開としたいと思いますがよろしいでしょうか。

(了承)

○奥村誠会長

はい。それでは公開といたします。

続きまして本日の議事録署名委員の指名ですが、前は岩間委員にお願いをいたしました。名簿順ですと姥浦委員となるところなのですが、本日、姥浦委員、その次の遠藤耕太委員もご欠席ですので、遠藤智栄委員にお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

それでは事務局より資料等の確認をお願いします。

○郷湖政策企画部長

お手元に座席表、次第、資料一覧、資料1、資料2-1から2-3まで、資料3、資料4-1、資料4-2、それから前回の資料と議事録を綴じた青いファイルを置いてございます。それより前の資料につきましては、事務局でお預かりしております。ご覧になりたい際には会の途中でも挙手にてお伝えいただければお席までお持ちいたしますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それから参考資料といたしまして、仙台商工会議所さんの方で取りまとめられました「仙台活性化まちづくり 2030 中間提言」こちらの方を机上の方に置かせていただいております。4月2日に仙台商工会議所さんの方から本市宛に現在策定中の新総合計画および都市計画マスタープランについて提言を受けたものでございます。

資料は以上でございますが、資料の不足等ございませんでしょうか。

○奥村誠会長

はい、ありがとうございます。

それでは、先に今ご紹介ありました「仙台活性化まちづくり 2030 中間提言」につきまして、商工会議所の今野薫委員さんの方から簡単にご説明いただけますでしょうか。

○今野薫委員

はい、かしこまりました。3分程度と言われております。少しおつきあいいただければと思っております。

タイトルにございますように、今回中間提言というかたちでまとめさせていただきましたのは、今まさにこの場で審議をいただいております総合計画、それとマスタープラン、これの両方のところに経済界としての意見を是非申し述べたいということからまとめさせていただいているものであります。今回中間提言というかたちで項目立てだけになってお

りますが、これは秋口に向けまして本提言を行いたいと考えてございます。

簡単にそのつくりだけご説明申し上げますと、左側に「課題・危機感」ということで赤枠で5つ挙げさせていただいております。これの背景にございますのは、非常にこう経済界の中で危機感が募っているというところが根強くあったというところでございます。個別の中身についてはご説明申し上げますが、やはりこの会の冒頭でもご説明ございましたように、復興期間におきまして他都市から非常に競争力的に遅れてきたのではないかと、いうふうなところが、非常に危機感の根底にあるものでございます。この「課題・危機感」に対してどういうビジョン、構成を持つかというところがその右側、青い部分でございます。その右側にこれからの方策、具体例というふうなことでまとめさせていただいておりますが、実際に行う主体を明確にしましょうということで、民間が行うべきこと、そして官民が一緒になって行うべきこと、そしてまた、行政さんとして行っていただかないとどうにもならないというような部分の3つに分けさせていただいたというふうなことであります。

個別個別につきましては申し訳ございません。お時間の関係もございましてご説明申し上げます。これまで議論いただいている中身とずいぶん重複する部分もございまして。また、マスタープランというようなことでより具体的に提言を申し上げている部分もあるということだけ申し添えさせていただきます。

#### ○奥村誠会長

どうもありがとうございました。本日の審議の内容とつながる部分も多々あると思いますので、ご発言の時にご参考にしていただければと思います。

本日の議事に入ります前に、審議会の今後の日程というのを確認しておきたいと思っております。資料1の「令和元年度審議会日程」をご覧ください。

本日、線が引いてあるところの第5回審議会になります。本日は引き続き「審議経過」の審議をしていただきます。

前回ご説明いたしましたが、「審議経過」の意味ですけれども、今回その総合計画審議会の審議期間が2年半という長期に及びますので、確認しつつ手戻りがないよう整理をして進めるという趣旨で、中間で報告ということで取りまとめさせていただいております。その時にありましたように、ここまで決めたものをもう決まりだっているふうにして次に行くということではなくて、後になってこれはやはり抜けていた、あるいは修正が必要だということになったら、その修正もしていくということです。ただ決めていけるところは決めていきたいということでございますので、ご理解いただければと思います。

今回、審議経過の修正案をお示ししております。次回は7月10日になりますが、第6回の審議会の冒頭で内容を再確認していただきまして、そこでいったんこの審議経過については区切りになるというふうにご覧いただいております。ですからこの審議経過についての実質的な内容の検討というのは今回限りということになりますので、本日ご議論いただければと考えております。

## 2 議事

(1) 仙台市総合計画審議会における審議経過について

○奥村誠会長

それでは本日の議事に入ります。議事の第1「仙台市総合計画審議会における審議経過について」です。前回皆さまのご意見をいただきまして修正をいたしております。それも含めてまずは事務局から説明をして、その後、委員で意見交換をしていただきたいと思いますというふうに思います。事務局から説明をお願いします。

○松田政策企画課長

それでは資料2-1から資料3までについてまとめてご説明を申し上げます。まず資料2-1の追加意見一覧をご覧くださいと思います。こちらは前回の審議会以降、追加で各委員からいただいたご意見をまとめたものでございます。

詳細はご覧の通りですけれども、概略をご説明しますと、小岩委員からは、震災の教訓である「自助」、「共助」、そして「連携」、この視点を「仙台で育つ」の視点の取り組みに生かしていくということのご意見をいただいたところでございます。

佐藤委員からは、災害対応等における「心のケア」における専門家と市民との協働の重要性、そしてまた、「災害対応や防災」は重要な課題であり、もう少し議論の中で強調してはというようなご意見をいただきました。

庄子委員からは、活力の観点から見た時の東北の中の仙台の位置付けの表現について、また、首都圏から近距離であることを仙台の優位性と前回お示ししておりましたが、これに対するご意見、また、東日本大震災の経験の継承・発信という表現について、得られた知見を継承・発信するべきとのご意見をいただきました。

裏面にいきまして竹川委員からは、現状の分析や議論、資料作成時におけるデータの活用的重要性と都市経営を意識した議論に関するご意見をいただいたところでございます。どうもありがとうございました。

続いて資料の2-2、A3版の資料をご覧くださいと思います。こちらは第2回の審議会以降、この資料を基に都市像、そして重点的な取り組みについて議論をしていただいたところでございます。前回の審議会でもいただきましたご意見や追加のご意見を基に、主に右側のキーワードについて朱書きで修正・追記をしております。

続きまして資料2-3、審議経過修正案をご覧くださいと思います。こちら冒頭会長からありましたように、前回の審議会でお示したものでございまして、その際いただきましたご意見を基に修正を加えた版を本日お示しをしております。

本日は修正した点について主な部分をご説明させていただきたいと思います。

まず1ページをお開きください。「計画策定へ向けて」とありますけれども前回は新総合計画が目指す「次なる時代」の説明についてもう少し検討が必要ではないかなどのご意見をいただきましたので、ちょうど1ページの中ほどの「近い将来」の段落から次の段落にかけて、「次なる時代」について説明を加えております。具体的には社会環境・生活環境の変化、それから次の段落にいきまして多様な価値観やテクノロジー、こういった新たな文化への順応などに触れながら、多様な主体が持てる力を発揮できる時代を「次なる時代」と表記させていただいております。

また、「SDGs」に関する補足を下段に追加しました。

2ページをお開きください。上段の「仙台市の人口推計と将来の見込み」の図について、こちらの緑色の矢印の部分の表記が前回「次なる時代への転換」とお示ししておりましたが、転換期が何十年もあるように見えるというご意見をいただきましたので「次なる時代」へと修正させていただきました。

4ページをお開きください。こちらは「4つの都市個性を活かしたまちづくり」を説明しているページでございますが、前回の審議会におけるご意見として、「杜の都」の理念は市民と共に創り上げてきたというご意見、それから他にも、これまでの審議会の議事録を振り返りましたが、市民と共にであるとか、市民協働に関するご意見をこの場で多々いただいておりますことから、こちら4ページの2段落目の最後に「市民協働によるまちづくりの歴史も本市の財産」という部分を加えました。また、最後の段落の冒頭にも「このまちが培ってきた市民協働の理念のもと」という文字を追加させていただきました。

また、下のこのイメージ図ですが、たくさんの委員の方々からご意見をいただきましたけれども、まず都市個性の表記について、「〇〇の都」というふうにそろえておりましたが、こちらの表記を改めましたほか、今「環境」となっている部分は、前は「杜の都」という表現でございました。これが都市個性の1つを表すいわゆる「杜の都」と、それから、4つの都市個性を活かしながら目指す新たな仙台の姿を表す、新たな「杜の都」というように、表現が2つありましたので、紛らわしいというご意見がありましたので、「杜の都」の都市個性については「環境」と置かせていただきました。また、この「杜の都」、「環境」の都市個性には防災の観点も含むので、「安全・安心・安らぎ」の観点も入れた方がいいとのご意見がありましたので、「環境」の都市個性の説明のところ、左側になりますが、「安全なまちづくり」という部分を追記いたしました。また、先ほどの追加意見にありました「活力」の都市個性の説明として、上右側になりますけれども、仙台を「東北の玄関口」と前回では表記しておりましたが、この表現はふさわしくないのではというご意見をいただきまして、「東北と世界をつなぐ広域交流起点」というふうに修正いたしました。

5ページをご覧ください。都市個性の「環境」の上の方に背景を記載しておりますけれども、前回の審議会でも、戦災からの復興に当たって目指してきた「杜の都」の理念、そして姿としての「杜の都」だけではなくて、理念としての「杜の都」が今日の都市形成につながってきたことなどのご意見をいただきましたので追記をしております。

また、先ほど追加意見でありました「災害対応や防災を強調すべき」というところにつきましては、同じその「環境」の都市個性の「目指す方向性」の中に「災害への備えを基盤とし」と表現を追加しました。

それでは8ページをご覧ください。ここからは7つの視点をご説明しているところでございますが、まず前回お示したこの視点①の表現「仙台を伝える」というところについては、ただ今あるものを伝えるだけではないのではないかとのご意見をいただきましたので「磨き伝える」とし、副題に「継承」という表現を追加しました。また、その下の「施策形成の背景」として、「脱炭素社会」を大きな目標として掲げることについて前向きなご意見をいただきましたので、その旨を追記しております。その下の「取り組みのイメー

ジ」として、「杜の都の進化と継承」の1段落目になりますけれども、「歴史資源」という表現が前回ありましたが、「受け継いだ貴重なもの」という趣旨を込めて「歴史資産」と表現しましたほか、緑の維持管理についての記載を追加しました。

9ページをご覧ください。「仙台でともに生きる」の視点でございますが、多文化共生に向けた基盤づくりの背景としまして、政府による外国人材の受け入れ促進の動きがあるというご意見をいただきましたのでその旨を追記いたしました。また、健康増進に関する記述が少ないのではというご意見がありましたので、「施策形成の背景」の3段落目になりますけれども人生100年時代における健康寿命延伸や誰もが活躍交流できる場に関する記述を追記しました。

10ページをお開きください。「仙台で暮らす」の視点でございますが先ほどの災害対応や防災の部分強調するべきというところがありましたので「取り組みのイメージ」の1番最後に「地域特有の災害リスクへの対応など」という取り組みイメージを追加しました。

11ページですが、こちらは「仙台で育つ」の副題の表現について複数の委員の方々からご意見がありましたので、それらを勘案しまして、メインテーマを「仙台で育つ」とし、副題を「子どもを産み育てたいと思えるまちづくり」としました。これに伴い、「施策形成の背景」につきましても、前回は課題対応型の施策についての記載が主だったのですが、今回、この最後の段落のところに子育て施策に関するポジティブな視点として、「まちづくりのあらゆる分野に『子ども・子育て支援』の視点を持ち、仙台で子どもを産み育てたいと思われる取り組みが求められる」というふうに追加しました。また、言葉の表現として「たくましく」という言葉が多々出てきていて、ちょっと違うイメージを持ってしまうというご意見がありましたので、「心身ともに」などの補足をさせていただきました。「取り組みのイメージ」としては、子どもたちへの地域への愛着についてや学びの質についてのご意見がありましたのでその旨追記しております。

12ページをご覧ください。「仙台で学び合う」につきましては、副題が前回「地学連携」だけだったのですが、これだけでは少しご議論に当たって具体的なイメージが湧きにくいのではというふうに考えましたので、「地学連携を通じたチャレンジと学びの環境づくり」というふうに事務局の方で追記させていただきました。

13ページになりますが、前回の資料でお示しした「働き方改革」というワードにつきまして、これは手段であって目的ではないというご意見や、10年先まで働き方改革をやっているは駄目なのではというご意見がありましたので、1番上の「視点」の部分に、「多様な人材の力が地域経済の活性化を促進させる」という部分を追加しましたし、「取り組みのイメージ」でも、働き方改革ではなく「多様な働き方の実現」という表現に修正いたしました。

14ページをご覧ください。「躍動する仙台を創る」については、追加のご意見で「首都圏からの近接性だけでは仙台の優位性にならないのでは」とのご意見をいただきましたので、「施策形成の背景」の中段位になりますけれども、首都圏からの近接性だけではなく、「自然と調和した都市空間や自然観光資源と仙台都心の近接性など、仙台ならではの魅力」を追加いたしました。

最後に15ページをお開きください。前回のご意見として、「市民協働や公民連携につい

て8つ目の視点として掲げてはどうか」とのご意見をいただきました。また、先ほども申し上げましたが、市民協働に関するご意見を多々いただいて来ておりますし、一人一人のアクションが大切であるなどのご意見もありました。これらについては、7つの視点に基づく取り組みと並列というよりは、7つの視点に基づく取り組みを支え、推進していくための横断的な視点であるというふうに考えまして、最後の「持続可能な都市運営に向けて」として、ここにいったん記載をさせていただきました。また、この部分に関して、「仙台を経営する」という視点で、さまざまな取り組みを収入アップや利益率の改善など経営の視点で考えることの必要性について追加でご意見をいただきました。さまざまな施策の推進を下支えする都市経営の強化は重要な視点でありまして、重点的に取り組む7つの視点の中では、特に「仙台で働く」と「躍動する仙台を創る」が施策の中心になるかと思えます。10年間の計画期間において、収入増や収益率の改善などを具体的に見通すことの難しさも一方ではあるものと考えておりますが、このような視点も意識しながら、今後、部会場で具体的な検討を進めてまいりたいと考えております。

なお、前回お示しした審議経過では、7つの視点ごとに関連するデータを2つ程度掲載しておりましたが、複数の委員から、それぞれの視点の現状を客観的に示すデータとは言えないのではないか、また、部分的な現状を示すことにしかならないので今の段階では記載しなくとも良いのではないかとのご意見をいただいたところでして、事務局もその後検討しまして、特定のデータを掲載することがかえって分かりづらくしている側面もあると考えまして、今回のこのまとめに当たっては掲載しないこととしました。

一方で、データに基づく適正な評価や議論の重要性についてのご意見もいただいております。事務局としてもこの点は十分に留意する必要があると考えております。審議経過をはじめ各種の資料を作成するに当たりましては、その記載内容について本市の状況だけでなく、例えば他都市との比較をするなど、データによる裏付けをしたうえで作成しておりますが、今後におきましても、第1回審議会でお示しした基礎データ集における政令市比較なども活用しながら、データに基づく客観的な評価についてできるだけ分かりやすくお示しをしてまいりたいと考えております。

最後は資料3になります。こちらは新総合計画の構成の想定をお示しした資料です。右側には参考として、現在の基本構想と基本計画の構成をお示ししております。

現在、いったん取りまとめている審議経過につきましては、新総合計画の構成の総論や都市像、重点的な取り組みにつながってくるものでございます。また、基本的な施策を考えていくに当たりましては、重点プロジェクトを中心に検討してまいりますが、このプロジェクトに係る施策以外の施策につきましては、「分野別計画」の中でまとめていくことを想定しております。そのほか各区ごとの計画となる区別計画や、計画策定後の進捗管理の手法等におきましても「総合計画の推進」としてお示しをしていく想定で考えております。

なお、構成はこれで決定というものでは決してなくて、今後の議論を踏まえまして、より効率的で分かりやすい構成を目指していきたいと考えております。

○奥村誠会長

ご説明ありがとうございました。今最後にありましたように、新しい総合計画の最終的に出来上がる計画書のイメージ、それから今までお話、審議をしてきたところ、それから今回の審議経過でまとめようとしているところとの関係について説明いただきました。審議経過の審議もかなり進んで大詰めになっておりますので、最終的な計画の全体像との関係、イメージを持っていただいたほうが良いと思ひまして、仮置きでありますけれどもこのタイミングでお示しました。

それから今説明ありましたように、修正案についてですけれども皆さまからいただいたご意見は極力反映するようにいたしておりますけれども、全体的な文脈の中で残念ながらうまく入ってないということもあります。そうした点につきましても何かございましたら本日改めてご意見をいただきたいというふうに思ひます。

本日のこれからの審議ですけれども、審議経過の構成に合わせて4つに区切って意見交換をいたしたいと思ひます。資料2-3の審議経過の議案ですね。まず時間は19時45分までということになると80分位ですが、何回か議論させていただいておりますので、「Ⅰ 計画策定の考え方」、それから「Ⅱ 新たな杜の都に向けて」の4つの視点、この辺り10分ずつぐらいで。それから3つ目の「Ⅲ 重点的な取り組みの視点」、これは少し今回手が入っておりますので50分ぐらい、最後、「Ⅳ 持続可能な都市運営に向けて」は別出ししたところですが、ここについて10分ぐらいと考えております。

まず計画策定の考え方というところで1ページ目です。次なる時代というのが分かれば苦労はないのですが、分からないなりに備えるというか、準備するという、少しダイナミックに考えたいというようなこともあって、今回修正文をつくらせていただいております。

では今回も手を挙げていただくという方式でそれぞれ簡潔にご発言いただけるようお願いいたします。10分間ぐらいでと考えております。ご意見のある方どうぞよろしく願ひします。いかがでしょうか。

(挙手なし)

○奥村誠会長

すみません。「Ⅰ 計画策定の考え方」ですね。1ページ目から3ページ目までのところ。何回か議論させていただいておりますから大きな問題がなければ、ありがとうございますということにしたいのですが、よろしいでしょうか。

(了承)

○奥村誠会長

このところについては、とりあえず確定というようなかたちにさせていただきたいと思ひます。ありがとうございます。

続きまして「Ⅱ 新たな杜の都に向けて」4ページからですね。この部分はやはりその概念図というのがキーになるかと思ひますけれども4つの都市個性があるのだと、これを大



切に引き継ぎながら、あるいはさらに強めていきながら、その価値観を市民と行政も共有して、それを掛け合わせながらいろいろなチャレンジ、新しい取り組みなどで、それが活発に行われるような中から「新しい杜の都」という姿が現れてくるのだという、そういう考え方に立って書かれております。

前回たくさんのお意見が出ておるのですけれども、先ほど説明ありましたように、「杜の都」というワード、大変重要なワードですので、目的の方に持ってこさせていただきます、狭義の意味で使っていた「杜の都」は「環境」という名前に変えさせていただきます。そういうことで表題のところは「新たな杜の都へ」というふうにしております。

それから4つの都市個性ですね、やはりこれは掛け合わせることに妙味があるというか必要のところだということありますので、4つの丸印が真ん中でこう重なり合っているような図にさせていただきました。それぞれがですね、「環境」はやっぱ緑だろうとか、「共生」は暖色で橙色だろうと、「学び」は落ち着いてやるということで黄色だろうというようなことも考えて、最後出てくる「活力」はピンクと、まあこれがセンスがいいかどうかは別にしまして、そういう工夫もしていただいておりますのでございますが、表現も含めてご意見いただければというふうに思います。

15分ぐらい使えるかと思っておりますので、18時45分ぐらいまでを目途に進めたいと思っております。ご意見のある方は挙手でお願いいたします。

いかがでしょうか。はい。小野寺委員さん。

#### ○小野寺健委員

ここまで事務局にまとめていただいて大変お疲れさまでございます。私から何点かあるのですが、Iの計画策定についてはそのままいいと思うのですが、この図表は少し見にくいのかなと思っていて、それを言おうかなと思っている間に通過してしまったものですから、この図表の整理だけは是非、もう少し見やすいものがないかなというふうに思っています。

#### ○奥村誠会長

2ページ目ですね。

#### ○小野寺健委員

2ページです。それは少しご配慮いただきたいなと思います。

それからIIについてなのですが、大方その中身については問題はないと思うのですが、この順番がこれでいいのかなというようなことを思っています、例えばシートの中では「環境、共生、学び、活力」というような順番で来ていて、これも「環境、共生、学び、活力」というふうに来ているのですが、ぱっと見た時に「環境」が先なのかなというような思いが若干しまして、中身はこれで結構だと思うのですが、順番というか、順位付けをもう少し議論された方がいいのかなと。視点も含めてなんですけれども、次の視点も含めて、強み、視点のこの順番ですね、これを委員の皆さんにもう少しご議論いただきたいなというような思いがございます。

○奥村誠会長

今の点ありますか。いいですか。少しお話を聞いてからにしましょう。  
では、鎌田委員さん。

○鎌田城行委員

今、小野寺委員さんのお話したところに関連してなるほどそうだなと思ったのは、4ページ目の図で示されているところは上から「活力、共生、環境、学び」と並んでいますがその次の5ページで示されている文章のところの順番が「環境、共生、学び、活力」となっています。私のイメージとしては上から時計回りでいったほうが自然かなという、その配置図の順番を皆さまの共通認識で整えた方がいいかなというふうなそんな感じがしております。

○奥村誠会長

私が出打合わせで話していた時のこととお話しします。今回の審議では掛け合わせを重視していますからどれが最初でもなく結局全部大事という気持ちもあります。前回お示しした図では「杜の都」が「環境」のところにあつたのですが、だから地盤・基盤になっている「環境」が下に書いてありまして、まず「環境」が先にあると。でこの場で「共生」をしながらいろんな多様性をきちんと保ちながら、しかも新しく起こることについてみんな「学び」合いながら、そういうものの結集した先として「活力」が出てくるのだという考え方で、新しい状況に合わせて対応しながら花を咲かせるイメージなのです。ですので、上から下じゃなくて下から上に読んでほしいというのがつくった側の気持ちでございます。

そのほかこのところ。中坪委員さん、どうぞ。

○中坪千代委員

今の奥村会長の話に関連するのですが、仙台市PTA協議会でPTA入会のためのハンドブックを作った際に、イメージ図を作ったのですね。その時に下に土があつてリンゴの木があつて上に実がなる、間に子どもたちがリンゴの実ということで、地盤の土は地域、親、学校というかたちで、今の奥村会長の話のようにイメージ下から上にいくっていうイメージで図を作成したところ、かなり保護者からの分かりやすいというお言葉をいただいたので、たぶんこの図の方式の、個人個人の見方とかやっぱりそれがもうちょっと分かりやすければイメージもつけられるのかなというふうに今思いました。

○奥村誠会長

表現次第という話もあるのですが、例えば地盤だったら「環境」はもうちょっと横長とか、少し大きく広げた方がいいかなとかいう考えもあつたのですが、同じ重要性ということでやっぱり同じ大きさ、同じかたちでくっついているほうがいいかということで今は普通の丸の形になっています。

また、ここのところで「育てる」というワードを入れてみようかとも思ったのですが、「育つ」は視点④のところに入っているから紛らわしいかなと。イメージとしては上の4つの都市個性を活かして「新たな杜の都」を育てたいというそういう感じなのですね。だから出来上がっているものが初めから見えているわけではなくて、4つの都市個性を活かしながらみんな協力してより良いものを目指していくと、新しい時代の「杜の都」ができるでしょう。ですから上のキャッチフレーズに「育てる」というワードを入れてもいいのだけど、ただまた「育てる」って入れると、視点④のところに入っていますから、ちょっと思いついたけどやっぱり止めておきましょう。

下の方が基盤で、都市個性が重なり合って木が育っているように見えるかたちの図が良ければ、ちょっとそういうものをいったんつくって、どちらが良いか選んでいただくというのでもいいかと思います。

そのほかいかがでしょう。菊地委員さん、どうぞ。

#### ○菊地崇良委員

それでは「Ⅱ 新たな杜の都に向けて」の反映ということで、資料2-2のA3横の件について少し意見をさせていただきます。

まず「環境」の中において「取り組みのイメージ」が「仙台を磨き伝える」の中の「環境」のイメージの中に「防災環境都市」というのがあって東日本大震災の云々、災害の云々と「脱炭素社会に向けた施策展開」とあります。脱炭素社会というのはたしかに大きな課題だと思うのですが、これは前回の計画をつくった時にいわゆるその大きく捉えられたことで、実は今そのほかにも環境問題として、例えば環境ホルモンの問題やマイクロプラスチックの問題が今国連やあるいは専門の学会の方で取り上げられているというふうに認識しています。ですので脱炭素社会に向けたというふうに言い切ってしまうのはどうかなと思うので、ここは少し記述の工夫をした方がいいのかなというのが1点です。

それからもう1つ。子育てに、学びに関連してですけども、「学び」に関連すると、キーワード⑦「子育て・教育」がそこに相對するわけでありまして。その中で今仙台の方でいじめの条例をつくって、地域で子どもたちを守って育てましょうという話なのですが、この中をそのことを踏まえると、赤字で太くいじめとある次に、「地域と連携した学びの場づくり」ってあるのですが、学びの場ではなくて、学びだけじゃなくて育みの場をつくると、いわゆる学校から地域社会において全体として子どもたちを見守ってですね、時として学校に行き学びを手伝うとか、あるいは地域で学ばせるとあるのですが、学びというのは非常に狭くなってこの条例の趣旨から少々ずれてしまうので、ここは「育み」としていただいた方がいいのかなと。地域と連携した「育み」の場づくりというふうにした方がいいのかなと思います。「学び」については次のところに「学び」と書いていますからその分で十分意味を表すことができると思います。このⅡの「新たな杜の都」のA3の方に向けた話について少しお話をしました。

あとちょっと細かい事を言うと、資料2-2の1番上なのですね、「市民協働の理念のもと4つの都市個性を掛け合わせ、活かし合うというまちづくり」というところ。いいなと思って見たのですが、活かし合うという、「という」というのは、話し言葉なのかなと。

別に「という」はいらぬじゃないかと思ひました。深い意味があるのであればいいのですけど、そんなふうにし少し行政チックに感じたものですから細かいところお話しさせていただきます。

○奥村誠会長

細かな表現は検討させていただきます。そのほかいかがでしょう。  
竹川委員さん、どうぞ。

○竹川隆司委員

こちらの4ページと5ページ目を見比べた時という話、ちょっと細かい点になるかもしれませんが、「都市個性」の中で「共生」というところ、4ページに書いてある中の「市民の主体的な行動力」というのが非常に重要なというふうには思っているのですが、5ページ目のそれを噛み砕いて書いてある<背景>と<目指す方向性>を見た時に、最初の「市民の主体的な行動力」についての記述があまりないという印象を持っております。共生する社会をつくっていくために地域の課題は自分たちで主体的な行動力をもって解決していく、というような要素としてここに盛り込むのか、もしくはその主体的な行動力というのは実は「活力」というキーワードに当てはまるような話なのかなとも思ひます。

いずれにしても「市民の主体的な行動力」、特に地域のためという思いのもとで、社会課題、地域の課題を自分たちで主体的に行動しようというその行動力についての記載が4ページ目にはあるのですけれども噛み砕いた時にない。どこかに入っているといいのかなというふうには感じました。

○奥村誠会長

主体的にみんなが取り組むというような要素は、4つの都市個性や7つの視点の中で今回いろいろなところに本当は出てくるので、この後で出てくる「IV 都市運営」の15ページのところの辺りとのどちらに入れるのがふさわしいのかというのが、なかなか難しいところもあるかと思うのですが、4ページの図と次の説明と少し合わせた方がいいかということですね。検討させていただきます。

やしろ委員さん、お願いします。

○やしろ美香委員

視点⑥のところではちょっと思ひましたのでお話をさせていただきたいと思ひます。この「働く場所として選ばれる環境づくり」というのは、人間が働く場所として仙台を選ぶという考え方もあるのだけれど、一方として企業が働く場所を提供する、企業側から見て仙台を選ぶという選ばれる環境づくりということでその両面から見られるのではないかなと思ひました。そこでこの1番の頭のところに「地元中小企業の」というのに限定をしまうと、今仙台市では企業誘致で要するに外から仙台を選んでいただく、その働く場所として仙台を選んでいただくという施策を進めている中で、ここで最初に地元中小企業というふうには限定をかけてしまうと、外から仙台を選んでいただくとい

うところが少し薄れてしまうのではないのかなと思いました。もちろん私も地元の中小企業を応援するのはとても大事なことだと思うんですが、やはり外から来ていただくということも前提にしなければいけないと思うので、ここの書き方についていかがかなと思いましたのでご検討いただきたいと思います。

○奥村誠会長

はい、分かりました。今一応、資料2-3のところ、「Ⅱ 新たな杜の都に向けて」のところの話をしておりました。

今お話しいただいたのは「Ⅲ 重点的な取り組みの視点」の⑥ですね。ここのところの話かと思います。ありがとうございます。承りました。

では、庄子委員さん。

○庄子真岐委員

6ページの「活力」のところと資料2-2の「活力」の1番左側ですね。視点の中で「活力」として挙げられているのが、「高次な都市機能」と「広域の交流起点」。そのことだけが少し述べられているのですが、この「活力」の中には目指す方向性の中で産業活動、地域経済の活性化みたいな、経済の活力をつくっていくという要素も入ってくると思うので、この「起業家などの創造的な人材をひきつけ」という辺りをですね、1つこう、1番左の資料2-2の「活力」の項目の中に、広域的な交流起点、拠点である都市の機能ともう1つ経済の活力みたいなところを入れていただいた方が2本柱になっているのかなというふうに思いました。

○奥村誠会長

先ほどの話と関連はするのですけれども、もう少し産業を生み出す、創造的な人材あるいは活動の拠点というか起点となるという要素と、広域的な話という2つがあるということですね。はい、分かりました。

そのほかこの6ページまでのところいかがでしょうか。あるいは資料2-2の左側の4つの箱の部分ですが、どうでしょう。

榊原委員さん、どうぞ。

○榊原進委員

4ページ目の「市民協働によるまちづくりの歴史」を入れていただいて大変ありがたいですが、「歴史」というか「蓄積」というような感じかなと個人的に思います。先輩方が「協働のまちづくり」をずーっと取り組んできているものを次の世代、我々世代もそれを見習って進化させていったり、参考にさせていただいたりということがあると思います。なので、歴史がしっかり積み重なってきているということが財産なんじゃないかなというふうに思ひまして、「蓄積」に変更が可能であればいかがかなと思いました。

○奥村誠会長

表現をそれに合わせるということだと思います。

ではここまで、この4ページ目、5ページ目、6ページ目までのところですけども、大筋の話としては大体ご意見を反映できているというものと思いますので、少し表現のところ辺りは、最終的には、私にご一任いただきまして反映させていただくということによろしいでしょうか。

(了承)

○奥村誠会長

ありがとうございます。

それではお待たせしました。次は「Ⅲ 重点的な取り組みの視点」、7ページから始まりまして7つあります。14ページまでの間です。ここはまあいろいろとご意見あるかと思えますけども。

まず先ほども説明ありましたが、都市経営については視点というよりは最後のページのところに出ささせていただいております。ですので、これについてはもし何かありましたら、Ⅳのところの時間を取りました時にご発言いただきたいと思えます。それから大きく変えたところとしては視点④の「仙台で育つ」の副題「～子どもたちのより良い未来づくり～」です。当初は副題を「より良い未来づくり」としていたのですが、子どもを産み育てたいと思えるまちづくり」と修正をしております。それに合わせて現在の教育等の課題に対応するという事だけじゃなくて、子育て世代から選ばれるまち、子どもを産み育てていきたい時にやはり仙台でそういう子育てをしたいというふうにしてもらえる、選んでもらえるようなことにしたいということで、少し表現を前向きに修正しております。

それから視点⑤の「地学連携」ということですけどもこの部分はですね、実は第1回の審議会でご提案あった後、あまり具体的に何を表しているのかとあまり議論がされないまま来ております。そこで次回以降ですね、部会に入っていくと少しいろんな突っ込んだ議論をするのですが、この辺りはあまり意見が出ておりませんので、少しどんなことを考えればいいのかということについてイメージをそろえていけたらなというふうに思っております。

そこで、7つあるのですが、順番は少し変えさせていただきまして、はじめにこの視点⑤「地学連携」、「仙台で学び合う～地学連携を通じたチャレンジと学びの環境づくり～」というところについてご議論をいただいて、その後、残りの6つについてご議論いただきたいと思っております。

ちょっと先に私の雑感を言うてしまうのですが、今回の審議経過は、先ほどの途中にありましたように、こういう姿が最初にあってそれを着実につくっていきますというかたちにはなっておりません。なぜかと言うと、今ものすごく変化が起きる時代で、結局何が大事か、どういうふうに変わっているかということ、10年とはいえですね、全部見通すというのはやっぱり難しいでしょう。その時に逆に言えば気が付いた問題、重要だと思った問題にきちんと、しっかりした考え、方向性だけを持って頑張って取り組んでい

くという方向性がまさに大事で、だから出来上がった静的なとかスタティックな姿というものをつくるということではなしに、むしろダイナミックに動的にそこへ近づけていくのだという方向性に重点を置こうとしております。その時に、ややもすれば、まあ方向性が重要なことから間違いなくしっかりやれというご意見が出てくるのは重々承知しておるのですが、これからどうなるか分からないものに対して、間違いなく、効率的にやれと言われると何も出来なくなってしまうんですね。むしろこれはいいんじゃないか、これはうまくいくかも分からないねということに対して少しずつ試してみて、小さな失敗から学んで修正をしながら、徐々にその目的に近づいていくという、そういうアプローチを取るしかないのかなと思っています。その時に学びというのがものすごく重要になってくるのです。要するに失敗からも学べるはずなのです。だから何かしっかりと方向性が定まって確実にやっていけば話は簡単なのですが、失敗からも学ぶのだ、逆に言うと、失敗も少し許してもらいながら学ぶということでご勘弁いただきながら新しいことに取り組んでいきたいという気持ちが入っています。そのための、いろいろな人が取り組むために学び合いながら進めていきたい、その基盤になるのがこの視点⑤だというふうに考えております。

まずこの部分についてご意見をいただければと思います。いかがでしょう。

竹川委員さん。

#### ○竹川隆司委員

まずこの12ページを読んだ時に、率直に次のイノベーションが生まれないなと思ったのです。学び合いの環境自体についてはすごくまとまっているとは思いますが、では集積された知的資源の後に、さらに知的資源って生み出し続けないと結局駄目だよなと。そのための環境づくりの話はこれにしているのだと思うのですが、その仙台で働くという、例えばイノベーションによる成長促進につながるような知的資源の創出と活用みたいな要素を、「取り組みのイメージ」の中に加えた方がよろしいのではないかなと。環境づくりだけじゃなくて生み出すというところ、学び合いのアウトプットとして何が生まれるのかという要素も、この学び合いというところの中にも入れた方がいいのかなというふうに感じましたので、最初に発言させていただきます。

#### ○奥村誠会長

そのほかいかがでしょうか。

小野寺委員さん、どうぞ。

#### ○小野寺健委員

まず学び合いの方をやっていった方がいいですね。

どうしても学都仙台というので大学教育機関の方を見ているのですが、ほかに小中高校もありますし、専門学校も仙台はあるのですよね。特に専門学校に関しては、仙台は結構な数がありまして、全国的に見てもかなりの数の学生さんがいると思っています。ですからどうしてもこの目的、視点のところでは大学、大学院、そして高等教育機関となるので

すが、そのほかの教育機関の部分との連携というか、一緒にやっていくというか、そういった視点を是非忘れないでいただきたいなと思います。

特に市立。市立の高校も4校あります。市立仙台高校、仙台工業高校、仙台商業高校、それと大志高校がありますが、そういった高校も仙台は現実には持っていますし、そういった意味合いで、では次世代はどうしたらそういった学校と共に、学校をどういったかたちでもっていききたいのかというのも、その後の部分でも出てくると思うので、大学に特化するのももちろん大事なのですが、その辺のところ以外のところもここで若干触れていただくといいのかなと思います。

○奥村誠会長

阿部一彦委員さん。どうぞ。

○阿部一彦委員

生涯学習という高齢になってからの学びという視点も、今成熟期に入ると1番最初に言いましたので、その学びはとても大事なことだと思います。そして社会の働く場もいいのですけれども、その学びを通してボランティアとして地域社会に貢献する人材っていうのはとても大事なことですし、そのためのこの学ぶ機会というのもとても大きいのかなと思っています。視点⑤もそうですけれども、都市個性の「学び」のところにそのことを表現できないのかなと思いつつ、ここも十分に書かれているから。今のところで言いましたけれども、高齢になっても学ぶことができる生涯教育のところっていうのは特化してほしい、強調してほしいなと思います。今実態としてそのような方が増えているようにもお聞きしていますので、そしてまた、地域社会との関わりということもありますよね。その視点がここにあるといいかなと思いました。

○奥村誠会長

そのほか、菅井委員さん。

○菅井茂委員

このところの1番下のところにですね、「地域（仙台）における学び・体験機会の充実」という中に、今生涯学習という話が出たのですが、ここにかかっている生涯学習とは違うんじゃないかと。だから基本的にこの生涯学習という言葉はいらなくて、実際にその地域住民、学生、児童、生徒たちがこういうことをしていくという具体的な方がかえって生涯学習という言葉よりもいいのではないかなと思うのです。そういうふうにして分けたほうがいいだろうと。私自身は地域と社会人とそれから学生や児童と分けようと思ったのですが、それよりは一緒にするのだったら生涯学習という字句は削って、括弧の中の取り組みだけを書いたほうが、分かりいいだろうという感じがします。

実際に今、例えば小学校だと総合的な学習の時間で、この間、僕ちょっと行ったら、ある学校では、「私たちのまちについて調べよう」というので19時間も使っているのですよ、小学3年生で。そうするとかなり地域のことを勉強している。さらにそれが5年生でもつ



と進化させるという話ですので、そういうことを今やっているのであれば、もっともっとそれを推し進めていくことで地域の愛着を生む授業が展開されるだろうという感じがしますので、その辺具体的なものの方にしていただければと思いました。

○奥村誠会長

阿部一彦委員さん、どうぞ。

○阿部一彦委員

地域の支え合いという意味で菅井委員がおっしゃったことはその通りだと思います。もう一方は、高齢になっても学ぶということで、例えばアメリカではコミュニティカレッジに高齢の方々がたくさん学んでいるのも実際にあることで、その2つの面が大事だと思います。地域にということと、それから学び続けたいという人の多いことについても大事だと思います。

○奥村誠会長

岩間委員さん、お願いします。

○岩間友希委員

表現は難しいと思うのでお任せするのですが、人口減少とか少子高齢化とともにというふうに、課題のことが先に書いてあると思うのですが、前のページの図示した円の中にも「世界をつなぐ」みたいな言葉があったと思うのです。

これからの10年は、日本の中で人口減少するだけではなくて、世界ではAIが当たり前になっていったりとか、いわゆるその、世界と比較した時の仙台の立ち位置みたいなものが絶対出てくると思うのです。

その中で、そのグローバル化がもう本当に進む中で、どう生き抜いていくとか、何でも地域のことをもっと学ぶといいんだっけとか、そういう探求する志向する力みたいなものを身に付ける学びというものはやらなくていいのかなということ、この文章だけだと何となく地域の中で閉じているような学びのように読み取れて、外に開いていく学びの文言を入れなくていいのかなということを思いました。

○奥村誠会長

施策形成の背景のところ、第2段落ですね。

では、飯島委員さん。

○飯島淳子委員

地学連携の「学」の方の議論が続いていたなかで、岩間委員の問題意識と必ずしも共通ではないかもしれませんが、「地」の方について少し申し上げたいと存じます。

「地」というのは、仙台市という区域を基本的に念頭に置いていると思います。狭域ですと小学校区などはあり得ると思うのですが、より広域を考える余地はないのだろうか。

とりわけ高等教育機関、特に理系の学部の配置は、人口動向への影響、特に人材の面で非常に大きな影響があると言われていています。奥村会長が前におっしゃっていた「東北地方から来る人を育ててお返しするのだ」という考えに、私も共鳴しております。そういった県レベル、東北レベル、あるいは世界レベルでも結構ですけれども、「地」の方をもう少し深めることもあり得るかと思えます。

また、「協創の場づくり」という場の創出につきましては、おそらくすでに実体法制度の中でもいくつかの手立てが存在しているのだろうと思えます。

例えば、私の個人的な仕事の場に引き付けて申しますと、専門職大学院では、学校教育法の改正を受けた専門職大学設置基準、省令の改正で「こういった場をつくりなさい」ということが出ておりました、おそらく文部科学省もそういった場づくりにすでに取りかかっている。そういった動きも踏まえた上で、仙台でどういう場づくりをしていくことができるのかといった考え方もあり得るかと思えます。

○奥村誠会長

渡邊委員さん、どうぞ。

○渡邊浩文委員

冒頭、奥村会長がおっしゃられたチャレンジというところが少々頭に残っておりまして、そこをずっと考えていたのですが、もしかしたら視点④の「育つ」というところにも関連するかと思っているのですけれども、やっぱり大きな失敗は避けるとして、小さな失敗をどんどんできるようにというようなのは、今の言葉で言うと寛容さですとか、もうちょっと大きく言うと、SDGsにもある包摂性だとか、そういったようなイメージがもう少し入ってもいいのかなというふうに思いました。

○奥村誠会長

舘田委員さん。

○舘田あゆみ委員

視点⑥の「働く」の方なのかどうなのかでちょっと迷ったのですけれども、学び合うというところに「学び直し」みたいなものも必要なのかなと思っております。

この間、東北6県と宮城県とかの、RESASというもので、求人と求職のアンマッチのデータを見たのですけれども、すごく多いのは専門職とか技術職のところの求人でした。すごく多いのだけれども、東北はそこに勤めたいという人がすごく少ない。介護とか、そういう専門職も求人は多いのに、そこに勤めたいという人が少なく、逆に求職が多いのが事務職というところだけバーンと突出していて、ただ事務職はもうこれからたぶん求人はどんどん少なくなっていくようなところなので、何となく東北はそういうアンマッチがすごく特徴的だなというのを見たのです。

それで技術職と言っても、理系の人でなければできないかということ、今はどんどんITとかに関しても使いやすいか現場の人が使えるようなレベルに落ちてきていますので、

あるいは農業とか水産業の現場にも入ってきている時に、そういうものをもう一回、働きながらも別のものも学び直して、自分の仕事とか、あるいは生活ですね。自分の身近な生活でもそういうものに生かしていくような学び直しという視点も必要なのかなというふうに思いました。

○奥村誠会長

菊地委員さん、お願いします。

○菊地崇良委員

今のご意見に私も同じところがありまして、この視点に少子高齢化と言いながらも、高齢者のことがあまり、その生きがいというところが少ないのではないかなと。それで視点⑤の先ほどのいわゆる生涯学習。ここをやはり高齢者の生きがい創出、人生100年のリカレント教育ということも含めた記述でやっぱり言う必要があるのではないかなと思います。

それからもう1つはこの「協創」という言葉なのですが、これは造語なのですよ。広辞苑にはたぶん載ってないのです。「きょうそう」という時に、「協」と「共」と両方あるのですが、この使い分けの分析というのはちゃんと踏んだのかなというところを確認したいと思います。

1点目は生涯学習を入れるべきと、2点目は用語の使い方についてです。2点目はちょっと確認をしたいと思います。

○奥村誠会長

事務局からお願いします。

○松田政策企画課長

1点目につきましては、ご意見として今後検討させていただきたいと思います。

2点目の「協創」については前にも鎌田委員の方からも話がありまして、まったくの事務局側での造語ということではなく、世間的には使われている言葉にはなりますが、まだまだ一般の方の耳にはなかなか馴染みがまだない言葉かと思います。

そういう意味ではもしかしたら先生のおっしゃるように広辞苑というものにはまだ載っていないというところはあるかと思いますが、こういった言葉を使うにあたっては、一応事務局でももちろん意味や使用度合いというものは調べた上では使っているのですが、それでも少し分かりづらいというところの言葉が無意識に使っているところもあるかもしれませんので、改めて確認をして、「協創」という言葉について次に書くのであれば意味を深めて、補足するなりして工夫をしていきたいと思っております。

○奥村誠会長

菊地委員さん。

○菊地崇良委員

使う前に、「共」と「協」の差異ぐらいはやはり準備しておかないといけないのかなと思うので、その部分の分析もどうぞよろしく願いいたします。

○奥村誠会長

今野彩子委員さん。

○今野彩子委員

学び合うという視点において、企業が果たすべき役割というのは実はすごく大きいのではないかなと思っております。

今、子どもが小学生なのですが、学級の中や、学年の中で物事を決めようとする時に、多数決やじゃんけんが非常に多いのです。我々、企業の中で新しい事業のことを考えたり決めたりする時に、じゃんけんとか多数決で決めないですね。さっきのイノベーションの話もそうですけれども、やっぱり私たち企業の者が教育の現場に入って行って、いろんな決め方があるよと話をしていくことで、子どもたちの価値観が広がっていくといいなと日頃感じております。

それから、大学との地学連携ということと言うと、何となく最近新卒採用に関する疑問を自分でやりながらすごく思っていて、この学び合いの中から働く場につながるいいなと思っています。

お互いにチャレンジをしながら学び合いながら、いつの間にか一緒に働いていた、みたいな流れができていくといいなと。ちょっと漠然としていますけれども思います。

小学生の現場もそうですし、大学生の現場もそうですけれども、企業にいる我々の方が学ぶということが多いという、結果としてそういうことになるのではないかなと思っています。

○奥村誠会長

庄子委員さん。

○庄子真岐委員

今のところと通じるところがあるかもしれないのですが、私も大学で教育に携わっていて、学ぶことを目的にしていることはないです。学ぶこと自体は手段だと捉えていて、やっぱり目的は学んだことを活かすことなのだと思うのですね。

そうすると、イノベーションを起こすために学ぶとか、そういうことのほうがすごく大事だと思っていて、このチャレンジするということを非常にやっぱり大事にさせていただきたいなと思っています。

その副題のところと言うと、「チャレンジと学びの環境づくり」ではなくて、学びの環境をつくってチャレンジなのかなと思うので、ここを逆にして「学びの環境づくりと地学連携を通じたチャレンジ」というふうにした方が順を追っているのではないかなというふうに感じました。

○奥村誠会長

折腹副会長さん、どうぞ。

○折腹実己子副会長

今の話と大分つながると思いますが、特に介護の現場などではキャリアパスとかキャリアアップすることが給与にもつながったり、良いケアにつながっていくので、その生涯学習という意味では、しっかりと学ぶ環境をそれぞれの職場できちんとつくるということと、その本人自身がやっぱりチャレンジしていくという意識をきちんと育てることがとても現場では大事だなというふうに感じています。

○奥村誠会長

大分盛り上がりましたが、そのほか、よろしいですか。

遠藤智栄委員さん、どうぞ。

○遠藤智栄委員

当たり前のことなので、たぶん書いてないのではないかなと思うのですけれども、あえて少しお話させていただきたいと思うのは、私が現場で、例えば中高生とかと一緒にまちづくりの話とかをワークショップでしていた時に、ある中学生が「こうやっていろいろアイデアを出すんだけど、結局大人は大人がやりたいものを僕たちにやらせるんだよね」というふうに言っていたのです。私もその少年と会うのは初めてだったのですけども「えっ、この子はじゃあ今までそういう目に会ってきたのかな」とすごく思ったのですね。

なので、やっぱり大人が伝えたいことというのも大事ですけども、やっぱり一人一人の子どもが何に関心を持って、何に挑戦していきたいのかという一人一人の興味とか、関心とか、探求心を伸ばしていくということが、その子の個性、そして仙台の個性につながるのではないかなということのを少々感じていて。なので、たぶんこの背景に書かれてあることにつながるのかなっていうことと、大人の方にもっと子どもの権利条約などを知ってほしいと思いました。例えば子どもとはどういう存在なのかということを一一人がどう考えるかで、子どもとの対し方もまったく変わると思うのです。

「子どもは弱いから守らなくてはいけない」という方だと、すごく丁寧にその危険を避けながら子どもと接するという、そういう姿勢も大事でしょうし、「いや、子どもにはできる力がある」ということを前提にいろんな事業とか取り組みを考えた場合の任せ方というのが違うと思うのです。

ですから、もちろん、ここに書かれてあることも大切なのですが、一人一人の仙台の子どもたちの興味、関心と個性が花開くことが、仙台の人を育てるというか、これからの、なかなか予測できない時代に活躍していける人を育てるということにつながるのかなと思いました。

どう直すとかというのは私も分からないのですけれども、まずお話させていただきました。

○奥村誠会長

阿部重樹委員さん。

○阿部重樹委員

提案とか提言ということではなくて、今まで委員がご発言された内容で参考になればということで発言をさせていただきたいと思います。

飯島委員が専門職大学院、そういう視点からの生涯教育の必要性、あるいは館田委員が学び直しとか、あるいは折腹副会長がキャリアアップという言葉が使われたのですが、行政用語なのかどうなのか分からないのですが、職業実践力の育成ということが結構文科省を中心に言われてきておりますので、何か押さえの言葉として使うのが適当であるということであれば、押さえておくということもあるかなということ、あくまで参考にとということ。

○奥村誠会長

佐藤委員さん、どうぞ。

○佐藤静委員

これまで出たところと重なり合うかもしれません。この「仙台で学び合う」というこの文言が単なる「お勉強しましょう」みたいなところで終わってはまずいだろうというふう思うので、少し工夫をした方がいいのかなという気がします。

クリエイティビティ。何かを生み出すというところを少しニュアンスとして出せるような文言に変えていただけるといいかなと思っていました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。いろいろな意見をいただきました。

実は私自身ものすごく悩んでいるところがありまして、視点⑤「仙台で学び合う」は、ここに入るべき話なのかという点です。後に「IV 持続可能な都市運営に向けて」というパートを設けましたが、そこは取り組みの進め方について触れているのですが、実は「学び」というのも進め方なのかと思ったりするところがあるのです。

要は、失敗は怖れず、きちっと用意はするのですが、色々な問題がどうなっているかということに気を付けながら、現場に学んで次の手を打ちながら良い方向に進めていくというのは、これは視点なのかということです。実はそうではなくて、全体的に進めていく時の大きな姿勢というか方針なのかという気もしてまして。

だから、教育的なものは実は視点④に書かれているので、むしろ視点⑤のところは皆さんが前向きにチャレンジで失敗を怖れず、そこから学びつつ、その分かったことを共有しつつ「頑張っていきましょう」みたいなことなのだとすると、実は1つの視点ではなくて、もう最後の進め方のところに回したほうがいいのかと、ずっと悩んでいました。今皆さんのお話を聞いていながら、実はこういう考え方が新しい産業を興す時にも必要だし、地

域課題を解決する時にも必要だし、いろんなところに出てくるのだと思うのです。

ただ、今これを大きくひっくり返しますと状況が変わるので、これは一応、先ほど言いましたように、途中案というか「途中、こんなことを議論しています」の取りまとめでしか過ぎないので、今のところは、この視点⑤はこのまま残させていただきつつ、今のようなフレーバーを少し入れさせていただきたいと思います。ですが、最後のところでまとめるときは、この話は「IV 持続的な都市運営に向けて」のこれからの進め方の基本方針というか、考え方のところに移るのかもしれないなと思っていますところ。そういうことで、今のところはこの視点⑤のところに置きますけれども、今後はそういうふうになるかもしれないということを少々お含み置きをいただきたいと思います。

視点⑤は結構意見をいただきましたものですから、残りの視点の①から⑦までの間のところで、次にお話をさせていただきたいというふうに思います。どのところについてでも結構ですので、また手挙げ方式でお願いします。

中坪委員さん、どうぞ。

#### ○中坪千代委員

どこをどう変えればいいということは言えないのですけれど、ずっと引っかかっていることがあって、視点④の副題「子どもを産み育てたいと思えるまちづくり」のところ。前回、私が欠席して流れがつかめてなかったこともあると思いますが、事前に自宅に届いた時にも少しこの部分が引っかかっている、必ずしも産み育てるべきなのかというところが女性から見てあります。

産むことを選ばずに子育てをしている夫婦もいらっしゃいますし、ここが少し露骨すぎるのではないかなということもずっと感じておりました。どう変えればいいのかということは今言えないのですけども、客観的に見て、そうではない考え方もしているご家庭、女性がいるということを見ると、もう少し優しい感じがよろしいかなというふうに思いました。

#### ○奥村誠会長

そのほか、どうでしょう。

鎌田委員さん。

#### ○鎌田城行委員

今のご意見の関連なのですが、松山市に行きますと、「このまちに産まれて良かった」と。「育てて良かった」と。「そういうようなまちにしましょう」ということをキャッチフレーズにまちづくりをされていらっしゃるのです。

これは主体がどこにあるのかと。親の目で見ると、子どもの目で見るとかです。だいぶ変わってくるなと思いますので、今のご意見はたしかに親の目を見た時に産み育てたいというふうになってしまっているのかというご意見かなと思いましたので、その辺りは私もたしかに共感するところ。です。

○奥村誠会長

佐々木委員さん。

○佐々木綾子委員

視点④の「仙台で育つ」のところなのですけれども、下の方の取り組みイメージといったところで、先ほど今野委員もお話ありましたけれども、学びの充実で行政・学校・家庭・地域の連携、地域にもしかしたら企業が入るかもしれませんけれども、やはりすごく企業が子どもたちを育む力がとても強いかなというふうに思っています。

一番下の行にも社会の著しい変化にも適応できる柔軟性を持った子どもの育成とあります。今の学校の教育ですと、2020年の受験の改革とかございますけれども、まだまだ小学生、中学生、そこに教育がなかなかまだ追いつかないところがあったり、時間がかかるかなといったところで、やはり自分で考える力を育むに当たっては企業の力というのはすごくとても大きいのかなと私も思っています。

今、STORIAで、貧困のお子さんたちの育みをやっておりますが、体験学習でとても企業さんの力が大きくて、そこで子どもの企業体験とか、そういったことで本当に社会の仕組みを今学んでいるところがございます。そういったところで学校、行政、家庭、そして企業といったところも含められるといいのかなというふうに思います。

○奥村誠会長

そのほか、いかがでしょう。

今委員さん。

○今里織委員

今の「仙台で育つ」のところ、あともう1つは視点⑥のところと、2つあります。

まず視点④の「仙台で育つ」のところの全体的なイメージなのですけれども、ここ、幼い子どものことだけを言っているような印象を受けたのです。その視点に立つのであれば、それはそれで構わないとは思いますが、どういう「育つ」、どこまでのことを言っているのかなというようなことがありました。

例えば高校生のことも教育というふうに言うと思うのですけれども、高校生のことの視点で見るとちょっと「おや？」と思うようなところもあったので、もう少しそこを書き込むのか、それとも幼い子どもに特化するのかというところを明確にしたほうが良いかなというふうに思ったところが1つです。

そしてもう1つが視点⑥の「仙台で働く」というところなのですけれども、地元中小企業は先ほどもお話が出ていたのですが、少し中小に偏っているようなイメージがあるので、地元の大企業もあると思いますし、地元で、ほかの地域で仙台に根付いて活動をされている企業もあると思いますので、そういったところの維持とか活性化といった視点も読み取れるような文章がどこかに入るといいかなというふうに思いました。

○奥村誠会長



菅井委員さん。

○菅井茂委員

視点③の「取り組みのイメージ」の3つ目の【地域課題解決への連携】のところの1行目のところで「地域団体（住民）」とあるのですが、上の記述等から見ると何で町内会がなくなったのかなという感じがして。「町内会・住民」という形にさせていただいたほうがいいのではないかなと思いました。

○奥村誠会長

菊地委員さん。

○菊地崇良委員

今委員の話に関連してですが、子どもという言葉と、それから学生や児童生徒という言葉の使い分けをしていますが、例えば教育に携わるのが学生・児童生徒というのであれば、昨今、幼児教育の無償化の話になっていきますけど、実はそれに先だって、文科省の方で幼稚園をいわゆる教育の一環として位置付けています。

そういうふうに使分けのだったら、幼稚園の位置付けが変わってきているということも念頭に置いていただきたいなということを補足させていただきます。

○奥村誠会長

そのほか、いかがでしょうか。

小野寺委員さん。

○小野寺健委員

視点③なのですが、地域コミュニティの定義というのがなんとなく気がかりに思っています。地域もいろいろあります。比較的人がいっぱいいるところは地縁的なつながりとか、共通の価値観の希薄さの部分はやっぱ問題であるでしょうし、若干人がいないところでは、そういったつながりはできているのだけど、コミュニティそのものの維持が困難になっているとか、地域コミュニティもいろいろある中で、その地域コミュニティの強化と一括りでいくということにちょっと違和感があります。何か言葉の関係で考えられないかなというふうに思っております。

また、地域という言葉ですべてを片づけてしまっているところがあるのですが、意外に地域はさまざま困難なことがあって、大変なことになって、きれいごとで済まないところが多々ある中で、すべて地域、地域というふうに言葉で片付けていいのかなという、そちらについての違和感があります。

あともう1つ、協働というところですが、協働はもちろん大事なことです。協働相手の力のレベルというか、協働の連携する相手と同じような力でいって初めて協働連携だと思うのです。ここ10年で比べてみてもなかなかアンバランスと言いますか、連携・協働と言っているところまで行っていないところも多々見えるのかなというふうに思っていて、

協働する相手、連携する相手のやっぱりそちらの方の強化や支援など、協働というふうに言葉を投げかけるのであれば、そちらの方の考え方も必要ではないかなというふうに感じているので、その辺のところは少し盛り込まれていければいいのかなというふうに思っておりました。

○奥村誠会長

鎌田委員さん。

○鎌田城行委員

今いただいた皆さまのご意見、すべて「すごいな」「なるほどな」と思って、感想めいたことになってしまうのですが、視点の①から⑦の部分まで、最初と最後のところは「仙台を」ということで、仙台の主体性みたいなところが確認されているのですけれども、中ほどでは「仙台で」どうするかという、その取り組み方の部分で、これはある意味、仮のタイトルとして最終的にもう一度一考があればいいなと思うのです。

仙台という言葉によって、都市ブランドである仙台なのか、ある意味「仙台で育つ」ということは仙台が育てるということの、仙台をこの総合計画によって構築していく、市民に息吹きを与えていくような、そういうことでこのすべてのタイトルに「仙台を」とか「仙台で」というふうに謳っているのかなと思いつつも、この仙台という、単なる土地ではないのだと。仙台の中に風土もあり、すべてが絡んでいるんだよというところの中での、この皆の共通認識というところに収まっていくのだらうなというふうな思いを持って聞いていました。ここで「これは何だ」というふうに言ってしまうと、今までの議論が少々大変なことになってしまうので、ここではなくて、感想として一応将来的な議論の構築の中で踏まえておきたいなというふうに思いましたので、発言だけさせていただきます。

○奥村誠会長

折腹副会長さん、どうぞ。

○折腹実己子副会長

8ページの視点①の最初のところの視点、「自助・共助・公助が浸透した世界に誇れる防災力を持ち」というところで、よくこの自助・共助・公助の時には互助という考え方があるかなと思うので、そういった視点もあってもいいかなと感じました。

それから、視点②の「ともに生きる」というところですが、この地域共生社会を目指していく取り組みというのはとても大賛成で、そういう方向に向かっていかなければいけないと思うのですが、そのところの「多様性が認められ、全ての人々が包摂される社会が」というところ。認められるというよりは、尊重されるということのほうが適切かなと。この4ページ下の共生のところには、「多様な価値観を尊重し合う」という言葉があるので、誰かが認めるというよりも、「尊重される」、「多様性が尊重され、全ての人々が」というようにつながったほうが何か自然な感じがいたします。

それから視点②と③にまたがると思いますが、「仙台でともに生きる」「仙台で暮らす」

というところで、地域共生の考え方を今も一生懸命構築しようと地域包括ケアシステムの先の地域共生社会を目指していろいろな動きがありますがけれども、誰かがつくるというのではなくて、誰もが役割を持ち、生きがいを持つ社会をつくっていく。支えられたり、支える側の関係性というのは、たぶん地域の中では固定しているわけではなくて、循環するというふうに思いますので、それぞれの地域ですべての人が生活の基盤を地域に置いて人と人との関係性とか、地域の中のさまざまな資源との循環の中で生きるみたいな、そういった視点もあっていいかなというふうに思いました。

○奥村誠会長

永井委員さん。

○永井幸夫委員

11 ページの「仙台で育つ」というところですけど、「たくましく生きる力を育む」まではいいのですが、「仙台自分づくり教育」というのは何なのかなと。

これは僕も分かりませんし、一般の方も分からないのではないのでしょうか。僕は小児科医なものですから子どもの個性を伸ばすような教育というのはすごく大事だと思うのです。というのは2つお話しすると、子どもが小学生から中学生ぐらいになってくると、いろんな個性が出てきて、例えば勉強は大嫌いけども、スポーツは非常に得意だとか、音楽がすごく得意だとか、そういう子どもさんがいるのです。ところが画一的に同じような勉強をさせて同じように塾にやっという感じでやっ、何か個性を潰しているようなきらいがあるので、「子どもの個性を伸ばす」ということをどこかに入れてもらいたいと思います。

あともう1つこういう例があるのです。ロボット工学をやりたいという数学と物理がすごく得意な高校生がいました。ところが、その某高校の先生が「お前、成績がいいんだから医者になれ」と説得し医学部に入ったのです。そして、医学部の3年生になって春休みに訪ねてきました。「解剖学とか生理学とか大変です」「土曜も日曜も勉強しています」と、全然楽しそうではないのです。どうして高校の先生は彼の個性を伸ばしてやらないのだろうというふうに思いました。

個性を伸ばすような教育。奥村会長なんか特にそう思っていらっしゃるのではないかと思いますけれども。そういう視点を少し入れてほしい。あとは先ほど言った「仙台自分づくり教育」というのはよく分からないなという、その2点です。

○奥村誠会長

菅井委員さん。

○菅井茂委員

「仙台自分づくり教育」は「仙台」と入っているからおかしいので、これは自分づくり教育というのを、仙台市として提案していて、個性をそれぞれ育てていこうというところの言葉ですので、「仙台」という言葉がじゃまだと思います。自分づくり教育が個性教育

なのです。だからそのところをきちっと。あまりにも仙台だけがやっているような感じで、特殊な形で言っているものですから。そんな感じがしました。

○奥村誠会長

阿部重樹委員さん、何かありましたら。

○阿部重樹委員

別件でもよろしいですか。

○奥村誠会長

はい、結構です。

○阿部重樹委員

仙台市社会福祉協議会から出てきておりますので、是非ということで。これまでも出てきていたのですが、さっき連携相手との力関係とか、それからあるいは折腹副会長さんのところですが、具体的に10ページの「取り組みのイメージ」の【地域課題解決への連携】の文章中のところ、2行目です。括弧内ですが、「課題を共有する機会づくり・解決に向けた協働・実践の場づくり、各主体間の連携強化」とありますが、こういうことを担う人材の育成と支援も不可欠だと思われま

す。分かりやすい言葉が妥当かどうか分かりませんが、「コーディネーターの育成・支援」が不可欠だろうと。コーディネーター支援の専門的な役割を社会福祉協議会で一部担わせていただいていますので、大変疲弊して十分には手が回らないという状況が今あるものですから、是非発言をさせていただきました。

○奥村誠会長

阿部一彦委員さん、どうぞ。

○阿部一彦委員

9ページに「仙台でともに生きる」のところで施策形成の背景として、ニッポン一億総活躍プランということが書いてあったり、「取り組みのイメージ」で東京オリンピック・パラリンピックのレガシーという言葉がありますけれども、ちょうどオリンピックのレガシーに関するユニバーサルデザイン2020行動計画に少しだけ関わっている立場から言わせていただきます。多様性を認め合う社会をつくるということとともに、いつもこのオリパラのレガシーということでは発言させていただいているのは、オリンピック・パラリンピックということで地域の方々も企業もある意味、企業は人材も内閣官房に派遣して財源も協力しながらやっていく、そういうことの取り組み自身をレガシーに残すべきではないか、つまり寄付の文化ですよね。一億総活躍プランでも寄付の文化の醸成ということを行っていますけども、やがてそういう社会になればいいなと思いつつも、この中には書けないのかな。

でも、今日、一番最後のところで、持続可能な都市運営についてというところで望むのは、やはり人的な支え合いもですけれども、財源的な支え合いも含めて、ある意味寄付の文化。ロンドンパラリンピックのレガシーということは、寄付の文化に支えられている。それが日本のところではないのが残念だなと思っていながら、かといってすぐ一緒にここにパッと書くことはできないのかな、やがてそういう社会ができればいいなと思いますので、発言させていただきました。

#### ○奥村誠会長

ありがとうございます。大変多彩な意見をいただきまして、基本的にはどういうふうに直させていただくかはご一任いただくということにさせていただきまして、次に進みたいと思います。

今、最後のところでご意見が出ましたけれども、15ページの「IV 持続可能な都市運営に向けて」、要するに実現に向けての進め方についてのところです。このところも重要だと皆さん認識をしている部分なのですが、議論はほとんどできていないということもあり、最後に「今後の協議課題としていきます」と書いてあります。

ですから、これからこのところは時間をある程度使ってお話をすることになると思うのです。ひとまずここに仮置きしておくのですけれども、その中でこの部分についてさらにご意見を今いただきたいと思います。10分間ぐらい大丈夫かな。

舟引委員さん、どうぞ。

#### ○舟引敏明委員

商工会議所さんからいただいたペーパーの「課題・危機感」のところの3つ目で復興需要のリバウンドという言葉がありました。このところ危惧していますのは、全国の復興増税で20兆円になるお金が東北に10年間で流れ込んできているのが、あと2年ないし3年経つと上流で蛇口が止まってしまうといった時の仙台の経済がどうなるのかというのが極めて不透明である。

ロングスパンのプランを立てるのに、財源の見通しをたぶんこれまで何も議論をしていなかったような気がしますが、そういうお金のフレームワークは本計画の守備範囲でないのかどうかということ。そうだとでもある程度の共通認識を持っておかないとバラ色の未来ばかり書いていても、ちょっとしょうがないのではないだろうかという気がいたします。

ここで初めてペーパーに「安定的な財政基盤」と書かれていましたので、意識はあるのだろうと思い、文言を変えろとかそういうつもりではありませんけれども、そのフレームの議論をしておかないと次のステップで施策を出していくという、安心して出せるのかどうかという点が1つ疑問に思っておりますので、その辺りの見解を教えてくださいたいと思います。

もう1点。この下から2行目に「市役所の組織風土」という言葉が混ざっているのですが、この辺り、どういう意味なのかを教えてくださいたいと思います。

すみません。先ほどの話題に少し戻るのですけれども、今月号の市政だよりも私がイン

タビューを受けた記事が1ページ載っております。グリーンインフラということの考え方を示しております、詳しいことは読んでいただければいいのですけれども、そういう環境を大事にしたものがベースとなって今の仙台の発展につながっているのだというようなコンテキストで書いておりますので、最初の時、4つのポンチ絵をどう並べるかという奥村会長の案で言うと、幹があつてその上に繁栄の実がなるような樹木の形の方が説明しやすいかもしれないなど。これは感想で思った次第です。

○奥村誠会長

阿部重樹委員さん、お願いします。

○阿部重樹委員

関連です。まったく今のご発言の後段の部分に同感です。今後ここをさらに充実させて書き込んでいく時に、そういう見方もあるというふうに留めておいて結構だということを申し上げたいと思います。

1行目に「これらの施策を推進していくためには、行政のみならず」と書いてあつて、2行下に『皆でまちづくりを支える「協働」を横串として』という表現が出てきます。そして次の段落、「行政として」と始まって、下から2行目で「市役所の組織風土や」というふうに含めて。何か縦割り行政みたいなものを相当自己認識されて、それをブレークスルーするのではないかというふうな読み方もあるものですから、感想ということで結構ですので、留めておいていただければと思います。

○奥村誠会長

事務局からここでコメントもらっているのかな。私も下打ち合わせの時に「この組織風土って何ですか？」と聞いたのですが、やはり外からも残念ながらそういうふうに見られているところもあるのでしょうか。そのほか、この部分についていかがでしょう。

飯島委員さん、お願いします。

○飯島淳子委員

この部分、横串としてどのようなものをどこまで設定するのかを少し考えていきたいと思っております。先ほど、視点⑤の学び合いについてはこちらにニュアンスとしても書くことはあり得るという話がありましたけれども、子ども・子育て支援についても11ページに「まちづくりのあらゆる分野に」とありますので、こういった実体的な方針なり目標なり価値まで書き込むのか。

また、協働の仕組みであるとか、情報技術もツールとして横串になるだろう。さらに、阿部重樹委員がおっしゃいました縦割りないし包括性といったもの、克服すべき縦割りは何なのか、ということも含めてそういった組織の在り方までやるのか。どこまでこの横串としてIVで論じるのかは、今後の課題として考えていきたいと思っております。

○奥村誠会長

小野寺委員さん。

○小野寺健委員

時間がないのでこれでいいのかと思いつつも、都市運営の担い手というところの議論がされていないような気がするのです。この仙台を誰がどういう形で今後この10年20年担っていくのか。役所だけなのか、それとも市民の地域の方々なのか、NPOさんなのか。いろんな形の要素がある中で、あまり議論されていないのをそんなに入れてもどうかという感想にはあって、「これ必要ですかね？」という。

逆に言うとその意味では会長の「今後こうしていきたい」みたいな取りまとめみたいなもので、ここにこれを書くことによってその後の議論がなかなか制約されてもどうかという気がするのですが、ここは非常に大切な部分かなというふうな感じもするので、また議論があってもいいかなと思っておりました。

○奥村誠会長

菊地委員さん。

○菊地崇良委員

私は逆にこれは必要だと思っていて、今前段の部分では市民の方々に現状を認識してもらってその主体としてどうあるべきかという意識を涵養していくことを示していると思います。後段はそれを支える行政の覚悟、少々遠慮深くこんなふうに書いていますが、これはやっぱり外せないと思います。

何となれば、これからの税財源の厳しさや人口減少ということについて、我々は認識しているのですが、市民の方々はほとんど認識していないのです。そういう状況をしっかり知ってもらった上での健全な都市経営をしていく必要が今からあるし、それを子どもたちや今の大人にも知ってもらうことが必要であるということから、私はこの部分はしっかりと詰めてやっぱり書いていくべきだと思うので、ご議論する中で私は必要だということだけ主張させていただきたいと思います。

○奥村誠会長

そのほか、どうでしょうか。要るのか要らないのかの議論になっていますけども。  
遠藤智栄委員さん。

○遠藤智栄委員

先ほど、舟引委員が財源のことですか、おっしゃっていたかと思うのですがけれども、日本のいろんな各地でも今、ソーシャルファイナンスの動きがとても活発になっていると思うのですが、私、仙台市ではそれがどのぐらい、どの程度されているのかは把握していないのですが、やっぱり地域にあるお金をどういうふうに地域の中で循環させていくかということをやっぴりもっと考えて、開発していく必要があるのではないかなと思っています。

自分たちで少しずつ財源をつくっていくとか、今あるものをどういうふうに掘り起こしていくとか、では世界からどういうふうに仙台に集めるかとか、そういった議論もここではあまりできていませんけれども、少々検討が必要なのかなというふうに思いました。

あとは15ページの上段の部分ですけれども、ここで『「協働」を横軸として』という表現で書いていただいているという部分と、あと会長が初めの方の議論の時から掛け合わせという言葉をご発言されていると思うのですけれども、それが前段の4つの円で書かれているところの、この「4つの都市個性を掛け合わせ、活かし合う」というところで掛け合わせという言葉が使われています。けれども、掛け合わせはこのテーマを掛け合わせるだけではなくて、協働を横軸とするということ自体も掛け合わせだと思のです。

私の今までの議論の認識からすると、協働を横軸とする多様な主体の掛け合わせ、これが今まで以上にかなり頻発して起こらないと、ある意味ここに書いてある4つの個性の掛け合わせはできないのではないかと考えているので、その辺りをもう少し書き込むと、これからへのチャレンジでもあり、少し緊迫感というものが出るのかなと思しました。

○奥村誠会長

ヒントをいただきました。ありがとうございます。最初に広げた風呂敷の線で一番最後をまとめろという、そういうお話だというふうに認識いたしました。

永井委員さん、どうぞ。

○永井幸夫委員

先ほどからも話題になっている最後のところの『市役所の組織風土や運営体制も含めた「協働」のあり方』というのがまったく意味が分からないのです。

要するに市役所の組織風土という親方日の丸的な雰囲気を守ろうとしているのか、改革しようとしているのか、風穴を開けようとしているのか、これがよく分からない。そこで、行政の方々がここで一気に改革しようと思ってこれを書かれたのか、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

○奥村誠会長

事務局からお願いします。

○梅内まちづくり政策局次長

たくさんのご意見をありがとうございます。

最初に舟引委員からありましたけれども、財源のところについての課題意識は商工会議所の資料と同じでございまして、今まで全国から流れ込んできたたくさんのお金によって仙台の復興が進んだのも事実であります。復興事業の進展に伴い、これからそれが止まってまいります。

その時には先ほど来、各委員から出ているように、地域の中でお金を回す、あるいは域外から資金をどのように獲得していくかという方向性が重要になりますので、危機感の提示も含めてその辺りの記載は非常に重要だと思っております。10年分の財政スキームを



この計画の中で固めるかという、10年というのが非常に長くて読みにくい部分もあります。これはこの後のご議論になりますけども、私どもとしては10年の計画で財政スキームを固めてしまうと、いろいろな変化に対応しにくいということが現実にあるので、スキーム論よりはそのような危機感であるとか方向性についてしっかり議論していくようなことが望ましいと思って今のところは準備を進めております。

また、市役所の組織風土等についての表現でございますが、これについては、これも例えば復興のことを言わせていただきますと、その際は震災復興という大きな目的が組織的にも共有されていて、仙台市としてはその垣根を取り払った力が非常に出了場面かなということをして市長以下よく話しております。

けれども、やはり震災復興がだいぶ落ち着いてきてまして、その中でさらにこの組織力を上げるためには、会長のほうからご意見がありますような掛け合わせですとか、まさに横串を刺すとか、そういったようなものがこの計画の中でしっかり謳われることで組織の力を十分に発揮するとか、弊害を除去すると言いますか、そういうようなことをやっぱりこの中でしっかり謳っていきたいという思いで書いております。書き方が不十分なためにちょっと分かりにくい表現になっているところについては今後検討いたします。

#### ○奥村誠会長

ありがとうございます。

すみません、時間の進め方が悪くて、盛り上がって良かったのですが、一応本日のご意見を踏まえまして、私のほうで修正、事務局と相談しまして、最初申しあげましたように次回の審議会の冒頭でほぼこれでということをお示しして、確認をさせていただきたいというふうに思います。

#### (2) 部会の設置について

##### ○奥村誠会長

思っていたより遅くなってしまいましたが、2番目の議事「部会の設置について」です。

今年度後半から部会に分けて少し具体的なところの議論をしていきたいというふうに思っておりますので、次回、部会に入る前にテーブルディスカッションをするということを考えております。事務局から説明します。

##### ○松田政策企画課長

それでは資料4-1と4-2を続けてご説明申し上げます。

まず「資料4-1 部会の設置について」をご覧くださいと思います。資料のご説明の前にこの仙台市総合計画審議会の設置を根拠付けている設置条例における部会に関する規定についてご説明いたしますと、審議会に部会を置くことができるということ、部会に属すべき委員は会長が指名すること、部会に部会長を置き、部会に属する委員の互選によって定めるということが決まっております。

それでは資料4-1でございますけれども、先ほどお示した審議経過の7つの重点的な取り組みの視点をそれぞれより関連の深い2つのグループに分けて、1の「地域と

くらし部会」、そして2の「まちと活力部会」の2部会で議論を進めていくという案でございます。

なお、一番下の「仙台でともに生きる」、こちらの方につきましては、地域や暮らしに関する施策を検討する上で不可欠な視点であるということの一方で、本日もご意見が出ましたが、多様性から新たな価値が生まれ、イノベーションにつながるという点では「まちと活力部会」にも必要な視点であるため、「共管」というふうに案ということでお示しをしております。

なお、これらの視点に基づく施策の方向性を検討するにあたっては、今ほども会長からありましたけれども、掛け算の議論を意識しまして、それぞれが所管している3つの視点を縦割りで深掘りするだけではなくて、ほかの視点への取り組みへのつながりも意識した横軸を通した検討をされるのが想定されますので、事務局としても両方の部会にしっかりと双方の議論を情報共有しながら進めてまいりたいというふうに考えております。

続いて資料4-2をご覧ください。こちらは部会までの手続きの流れをお示したものでございます。本日の審議会で部会の設置が決まりましたら、速やかに事務局からメールなどで委員の皆さまに配属部会の希望をお伺いしたいと思っております。その後、会長の下、調整の上、次回の審議会の前までに各委員に所属する部会について会長からの指名通知をお送りしたいと思っております。次回、第6回の審議会では、部会の名簿を改めてお配りさせていただきます。

なお、それぞれの部会の部会長につきましては、正式に部会が始まる10月に予定している第1回目におきまして互選により選出する予定で考えております。

次に次回の第6回の審議会で行うテーブルディスカッションについてですが、このディスカッションは10月からの部会での議論をスタートする前に仙台市の都市個性、4つの強みであるとか、7つの視点の掛け算を意識しながら基本的な施策やその施策の方向性、アイデアなどを一定程度の少人数で話し合っただけで今後の部会での審議の参考とすることを目的としております。

テーブルディスカッションはそれぞれの部会のメンバーをさらに2つに分け、全体で4つのテーブルを進めていくことを想定しております。各テーブルでは所属する部会が所管する視点をテーマとして施策のアイデア等をディスカッションしていただくものです。各テーブルのディスカッションを進めていくに当たりましては、委員の方のいずれかに進行をお願いしたいと考えております。また、事務補助として各テーブルには事務局職員が1名ずつ付く形を想定しております。

当日出されましたご意見につきましては、事務局でまとめた後、10月からの部会の際に参考資料として配付させていただきたいと考えております。

#### ○奥村誠会長

今の説明、テーブルディスカッションはやってみないと分からないですけれども、最初の部会の設置について2つの部会を置いて、視点を少し分けて、地域、くらしの在り方と、まちと将来に向けての活力創造というところに重きを置いた2つの部会を置きたいということですが、ご意見がございましたでしょうか。

よろしいでしょうか。

(一同了承)

ありがとうございます。

ではこの案に従いまして、部会を設置したいと思います。部会の構成メンバーについては、今説明がありましたように、今日の審議会後、速やかに事務局からメールなどで皆さんに希望をとりたいと思います。人数のバランス等で若干調整をお願いすることもあるかと思えますけれども、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

その上で次回7月の審議会までに、どちらの部会に所属していただくかの通知を事務局よりお送りいたします。よろしくお願い致します。

### (3) その他

#### ○奥村誠会長

これで審議しなければいけないことは終わりましたけれども、その他、委員の皆さまから何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

## 3 開会

#### ○奥村誠会長

本日の議事は以上で終了といたします。

最後に事務局から連絡事項をよろしくお願い致します。

#### ○松田政策企画課長

事務局からご連絡がございます。次回の審議会の日程です。

本日お配りしたお手元の座席表の裏面に、今後の審議会の日程について記載しておりますのでご覧いただきたいと思います。座席表の裏面になります。

次回の第6回審議会は、7月10日、水曜日の18時から開催したいと考えております。場所ですが、市役所南側の市民広場の近くにありますが「仙台パークビル」の2階の「TKPガーデンシティ仙台勾当台ホール1」で行いたいと思います。

いつもと違う民間のビルでの開催となりますので、お間違えのないようお願いしたいと思います。

#### ○奥村誠会長

それでは、以上をもちまして本日の審議会は終了といたします。

どうもありがとうございました。